

## 学びの改革実践校 取組紹介

学びの改革支援課

### ■ 上田高等学校

#### ～信州 WWL コンソーシアム 高校生国際会議～

上田高等学校は、平成 27 年度から文部科学省の SGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）として 5 年間実績を積み上げ、令和 2 年度からは WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業のカリキュラム開発拠点校の指定を受けた。共同実施校の松本県ヶ丘高等学校をはじめ、県下 17 校からなる高度な学びのネットワークの中心としてイノベティブなグローバル人材の育成に取り組んでいる。

指定最終年度となる今年度は、これまでの取組の集大成として、6 月 11 日（土）に高校生国際会議を開催した。会議本番へ向け、生徒が主体となって運営に関わることを目指し、昨年 10 月から生徒実行委員を募り、50 名を超える生徒が会議の準備運営に携わった。新型コロナの影響により、実行委員会はすべてオンラインで準備を進め、当日を迎えた。

環境活動家露木志奈さんの基調講演を皮切りに、テーマごと 6 つの分科会に分かれ、英語と日本語を用いてプレゼンテーションやディスカッションを行い、課題解決に向けた提言を取りまとめた。英語での議論はハードルが高く、苦勞する生徒も散見されたが、日本語も用いたことで、より深い議論がなされた。閉会行事では、提言を報告し合い、共同宣言を採択した。

県内 16 校、県外 6 校、海外 19 校から総勢 190 名もの参加者が SDGs に関するテーマについて活発に意見を交わし、未来に向けての宣言にまとめ、広く発信したことは非常に有意義であった。



### ■ 長野工業高等学校

#### ～AICTE 事業 ソフトバンク AI Challenge の活用～

長野工業高等学校では、デジタル化対応産業教育装置整備事業により、AI について学ぶためのハードウェア及び開発環境が整備され、高度情報通信社会で活躍する情報技術者の育成を行っている。

情報工学科で授業を担当する北村教諭は「情報工学科において、AI システムを開発する学びは必要だが、実社会で AI がどのように活用されているのか、AI の活用についての学びが不足している」という課題を感じていた。そこで、ソフトバンクの「AI Challenge」教材を導入し、AI 活用能力の育成を図っている。今までの開発側の知識に、活用する視点を加えることで、生徒の AI に関する創造力が大きく変化していることに手応えを感じている。

AI を体験した生徒は、「画像認識 AI を使った手書き数字の自動認識では、AI へ学習させる中身や回数の違いで認識結果が異なることが分かった。善光寺の御開帳で混雑の様子を見たときに、日別、時間帯別の混在状況を予測するシステムを思いついた」などと話し、実社会における課題解決に向けた、AI システムの開発を構想する心強い姿がうかがえる。

